

仕 様 書

1. 件名

「いいたてのうし」ブランド再興検討調査事業

2. 経緯と事業目的

福島原子力発電所事故の被災地である飯舘村においては、事故の影響により村の基幹産業であった畜産業が大変な打撃を受け、現在においても風評被害などの影響を受けている。今後さらに復興を促進するためには、「いいたてのうし」ブランドの再興が必要と考えられる。再興のためには、現在の畜産業を取り巻く各種の課題に対応したうえで、他の和牛ブランドとの差別化を図りながら、村内和牛生産者の参加が容易となる新たなブランドの要件を定め、付加価値を高めることのできるブランドの在り方を検討することが必要である。

このため、本事業において、飯舘村の畜産業を取り巻く課題解決を果たしつつ、持続可能なブランドの枠組みを形成し、地域に根付かせるために必要な項目について専門家の見解を踏まえ議論・検討する検討委員会を運営する。併せて、ブランドの付加価値を高める方法の検討材料として飯舘村内で放牧の実証事業を実施する。

3. 事業内容

(1) 専門家によるブランド再興に向けた検討委員会の運営

① 委員の選定、検討項目の決定

ブランド再興の検討課題について専門的知識を有する者を委員(5名程度)とし、委員会委員の就任を依頼。必要な見解を委員会で議論のうえ、それぞれの課題解決のための示唆を取りまとめる。なお、検討委員会は期間中4回の開催とする。

② 委員会資料の作成

全4回の委員会資料について委員会専門家の指示を基に作成、開催日までに委託者への確認を行う。

③ 委員会開催に関するロジ

委員会は委託者が手配する福島市内または飯舘村内の会場において開催することとし、委員の召集、謝金及び旅費の支給等の業務を実施する。

④ 議事録及び提案用資料の作成

開催後には議事録をとりまとめ、委員及び委託者への確認を行う。また委託者の指示により、委員会検討内容をとりまとめ、飯舘村及び関係者向けの戦略提案用資料を作成する。

この他、委員との連絡調整及び委員会運営に必要な業務を行う。

(2) 実証事業の運営

委員会での議論する内容の一つとして牛を放牧し、必要な実証事業を実施する。飯舘村で牛の放牧を行い、ブランドの付加価値として効果的に持続できる方法の検討材料として

検証するものとする。検証の内容については、公募時の提案を踏まえ、委託者と調整の上で実施する。なお、実証事業の詳細については仕様書補足資料を参照のこと。

(3) 定例会議

上記3. 事業内容(1)(2)の進捗を確認するため、原則月1回の定例会議(対面またはWEB会議)を実施する。

4. 実施期間

2025年6月上旬(契約締結日) ～ 2026年2月20日(金)

5. 報告と納入物

受託者は、委託者への報告書案を事前提出したうえ、委託者から是正・追加などの指示を受け、是正追加など指示事項を含め完了させたものを成果物(電子媒体(DVD・R等))として、2026年2月20日(金)迄に納入すること。

なお、報告書様式は任意とするが以下内容を含むものとする。

- ・飯舘村畜産業を取り巻く課題
- ・課題解決への検討結果
- ・実証事業の実施内容・結果
- ・「いいたてのうし」ブランド再興に対する検討結果及び戦略提案

6. 納入場所

公益社団法人福島相双復興推進機構 営農再開グループ調整課

〒960-8031 福島県福島市栄町6-6 福島セントランドビル4F

7. その他

- (1) 本事業の性質上、委託者との打合せや方針確認、委員会メンバーとの連絡調整が多くなることから、委託者から連絡があった際に迅速に対応できる体制の構築を行うこと。
- (2) 本事業の実施に当たっては、委託者と十分に打合せを行い、指示があった場合には、それに従い実施すること。
- (3) 本事業の実施途中で問題、事故等が発生した場合には、直ちに委託者に連絡するとともに、受託者の責任において解決すること。
- (4) その他、不明な点がある場合には、委託者に問い合わせること。

以上